

都市再生整備計画(第4回変更)

あ く わ み や ざ わ ち く だ い に き
阿久和・宮沢地区(第2期)

か な が わ け ん よ こ は ま し
神奈川県 横浜市

平成27年2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	阿久和・宮沢地区(第2期)	面積	1022 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 27 年度	交付期間	平成 23 年度 ~ 平成 27 年度				

目標

阿久和川、和泉川、相沢川周辺の水と緑の環境資源を保全・活用し、これらをネットワーク化することで、誰もが身近に水と緑の環境を親しめる、安らぎのある生活環境を整備・保全する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

阿久和・宮沢地区は、横浜市の西部、瀬谷区および泉区に位置し、川沿いの谷戸斜面を中心に緑地が連なって残る地域である。川沿いの樹林地は住宅開発などで年々減少する一方、緑地保全施策の推進や親しまれる水辺空間などの整備も進み、身近な自然に対する市民の意識も高まっている。

平成17年12月に策定された都市計画マスタープラン・瀬谷区プランにおいて、当該地区は「水と緑の南の拠点」に位置付けられており、まとまった緑と水の環境を将来にわたって整備・保全していく方針が定められている。また、地区の骨格をなす阿久和川・和泉川・相沢川とその周辺に連なる緑地は、「水と緑の基本軸」として、水と緑の環境に親しむことができる空間を確保することが定められている。平成17年2月に策定された都市計画マスタープラン・泉区プランでは、緑地や樹林地を、緑地保全地区や緑地保存地区といった制度などにより保全をしていくことが定められている。

こうした水と緑のまちづくりを実現するため、平成18年度から平成22年度の期間で都市再生整備計画(第1期)を策定し、和泉川に隣接する緑地の整備・保全、流域に点在する公園・広場の整備、また、和泉川や阿久和川における親水拠点の整備などをおこなってきた。その結果、地区の東側を中心に、水と緑を身近に感じられる安らぎのある生活環境の整備・保全について一定の成果を得た。

一方、地区の西側では、用地買収の難航等により事業の進捗が遅れ、水と緑を身近に感じられる施設の整備・保全が未完成のまま残ってしまった。都市再生整備計画(第2期)では、地区の西側、特に相沢川を中心とした地域で残された水辺広場の整備、歩行者ネットワークの整備をおこなうとともに、地区の南側に残る既存緑地の保全を行い、水と緑を身近に感じられる安らぎのある生活環境づくりの実現を目指す。

課題

- 1 地区の骨格となる河川に親しむための親水拠点の拡充が求められている。
- 2 地域資源に親しめるよう、緑地や親水拠点を結ぶ歩行者ネットワークの整備が求められている。
- 3 将来も緑が身近に感じられるよう、緑地の保全を推進していく必要がある。

将来ビジョン(中長期)

■都市計画マスタープラン・瀬谷区プラン(平成17年12月)

【目標】 身近な水と緑が育む、安らぎのある暮らしのまち

【まちづくり方針】

- ①水と緑の基本軸づくり：川と周辺に連なる緑地をネットワークすることによって、誰もが身近な水と緑の環境に親しめるようにするとともに、地域の歴史的な環境や固有のたたずまいを整備・保全する。
- ②水と緑の2大拠点づくり：まとまった緑と水の環境のある南の地域は、土地所有者の協力を得ながら、将来にわたって整備・保全を進めるとともに、利用しやすくなるような取り組みをすすめる。

■都市計画マスタープラン・泉区プラン(平成17年2月)

【目標】 ゆとりと豊かさのあるまち

【まちづくり方針】

- ①環境保全：緑地や樹林地などは、緑地保全地区や市民の森、緑地保存地区などにより保全を図る。

目標を定量化する指標

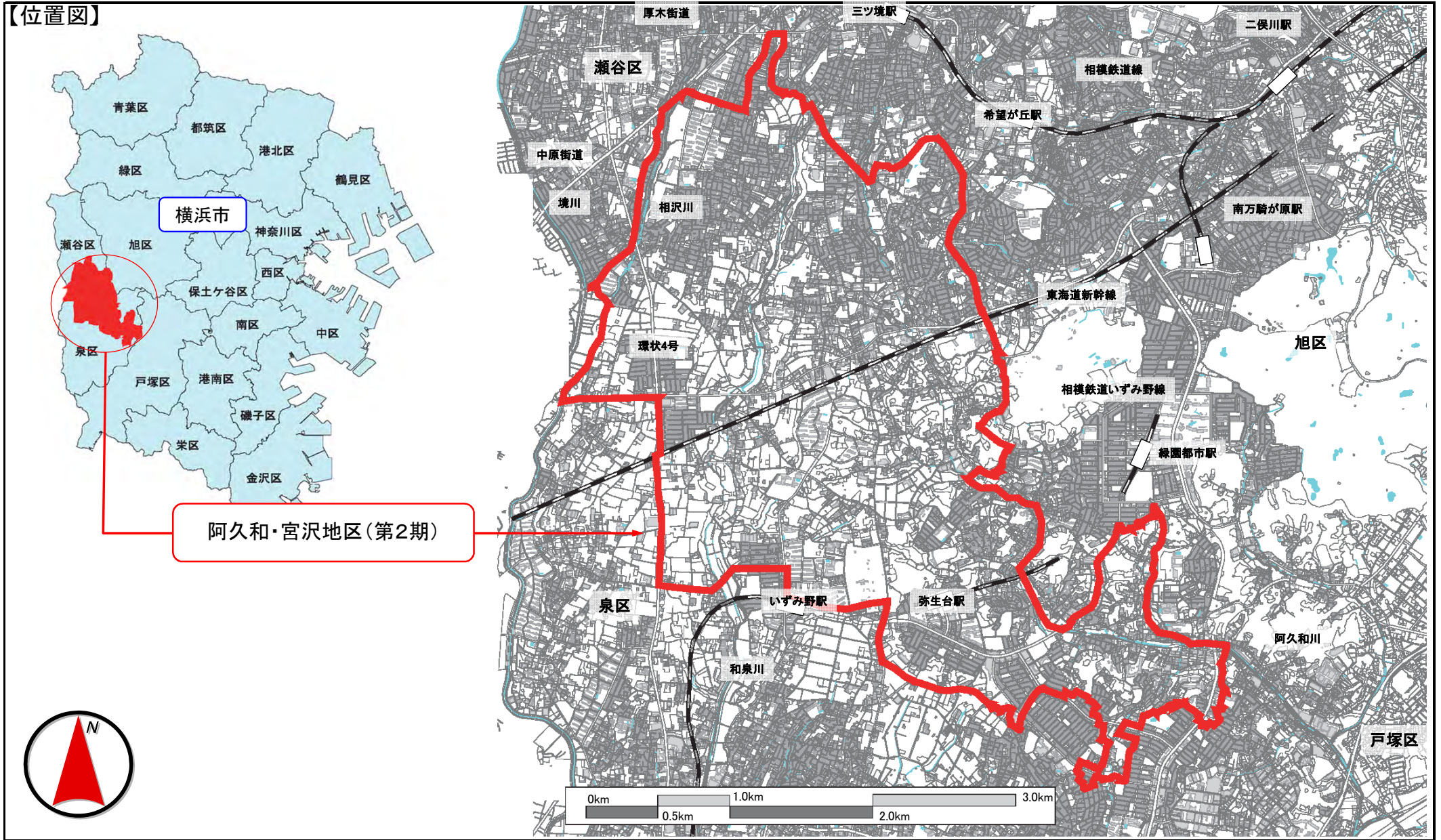
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
水辺愛護活動への参加者数	人/年	相沢川の水辺愛護活動に参加する人の数	相沢川水辺広場等の整備により、水と緑に親しめる環境が創出されたことを、水辺愛護活動に参加する人の数により評価する。	365	H21年度	365	H27年度
プロムナード利用者数	人/9h	相沢川沿いの通路を通行する歩行者の数	相沢川プロムナード等の整備により、歩行者ネットワークの形成が図られていることを歩行者交通量により評価する。	167	H22年度	183	H27年度
緑の保全活動人数	人/年	緑の拠点で保全活動を行った人数	緑地整備事業により、緑を身近に感じることでできる環境が拡充されたことを、緑の保全・活用に係る活動状況を確認することで評価する。	25	H22年度	28	H27年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・水の拠点を整備する 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(相沢川水辺広場整備事業)
<ul style="list-style-type: none"> ・水と緑のネットワークを整備する 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(新橋緑地整備事業) ・地域生活基盤施設(相沢川水辺広場整備事業) ・高質空間形成施設(相沢川プロムナード整備事業)
<ul style="list-style-type: none"> ・緑地を保全する 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(新橋緑地整備事業)
<p>その他</p>	

都市再生整備計画の区域

阿久和・宮沢地区(第2期)(神奈川県横浜市)	面積 1022 ha	区域 瀬谷区宮沢一～四丁目、阿久和西一～四丁目、阿久和東一～四丁目、阿久和南一～四丁目、南瀬谷一～二丁目、下瀬谷一丁目、下瀬谷二丁目の一部、下瀬谷三丁目の一部、泉区弥生台、西が岡一丁目、桂坂、上飯田町の一部、和泉町の一部 ほか
------------------------	---------------	--



あくわ・みやざわちく(だい2き)(かながわけんよこはまし) せいびほうしんがいようず
阿久和・宮沢地区(第2期)(神奈川県横浜市) 整備方針概要図

目標	阿久和川、和泉川、相沢川周辺の水と緑の環境資源を保全・活用し、これらをネットワークすることで、誰もが身近に水と緑の環境を親しめる、安らぎのある生活環境を整備・保全する。	代表的な指標	水辺愛護活動への参加者数 (人/年)	365	(H21年度)	365	(H27年度)
			プロムナード利用者数 (人/9h)	167	(H22年度)	183	(H27年度)
			緑の保全活動人数 (人/年)	25	(H22年度)	28	(H27年度)



基幹事業 高質空間形成施設
 相沢川プロムナード整備事業

基幹事業 地域生活基盤施設
 新橋緑地整備事業

基幹事業 地域生活基盤施設
 相沢川水辺広場整備事業

凡 例	
	基幹事業
	提案事業
	関連事業

